

我が町の キラキラ人(ひと)

若桜町

町内会長 加嶋 央嗣

早朝の自宅を出て目の前に映る静かな駐車場の光景は、40年間ほとんどその姿を変えることなく当時の面影を残した空間です。

現在は「こむ・わかさ」の駐車場として一日中ひっきりなしに人とクルマが入り出しています。私が小学生の頃は銀行の駐車場で、土曜日曜はほぼ無人であり現在ほどコンプライアンスも厳しくなかつた為、よく友人と野球やサッカー、家族とキャッチボールやバドミントン等をしていたことが思い出され

ます。



社会人になってからはほぼ実家を離れていたため、帰省の度に周辺の姿が変わって行きました。

遷喬小学校は建て替えられてかつての校舎と校庭が入れ替わり、若桜街道商店街のアーケードはシャッターが目立ち、同様に町内も懐かしい住居はなくなり、住人の方達は転居をされたりして駐車場や空き地が増えました。

しかしそんな中で、毎朝出勤時に何げなく目に入る実家の前の駐車場は未だに姿を変えることなく当時の思い出が呼び起こされます。

時代は進み、これからも地域は姿を変え続けて行きますが、まだ各所に当時の面影と思い出を抱えて佇んでいる場所があるなら、地域間の行事や人々との交流、環境維持のイベント等を通じて大切にして行きたいと思えます。

私たちが過去の思い出を偲んでいる時、その空間もまた私たちの現在を見守っています。

川端2丁目

出雲大社鳥取分院長

霧林 敦

川端二丁目には「出雲大社鳥取分院」があります。明治十四年、出雲大社より御分霊を勧請して出雲大社鳥取出張所として創建されました。当時、八十代出雲国造・千家尊福(たかとみ)公が「出雲大社(いずもおおやしろ)教」という教派神道を特立し、全国を巡って布教されていた頃で、因幡の地にもお出でになりました。

創建当時は境内も広大で、川端銀座が賑やかだった頃には、町の有力者も運営にかかわっていた



事から、地域のご婦人方が集う婦人会もあり、サロンのような場所でもありました。

しかし、昭和二十七年の鳥取大火で、すべてを焼失。区画整理後、現在の場所に再び建てられました。分院内にある本殿は、昭和二十八年の「昭和の大遷宮」の際にご神体をお遷した「仮殿」を拝領したものです。

六月三十日には「大祓祭」、十二月二十二日には「冬至祭」が執り行われています。

川端二丁目の町内会とも関りが深く、境内には町内の稲荷大明神が祀られ、「初午祭」や「御日待」の神事も執り行われています。



御祭神の大国主大神は、縁結びの神様としてよく知られていますが、その御神徳により多くの御別名があることから、様々な面で私達の生活を守る大神として信仰も篤く、日常におけるご祈祷や、正月の初詣では多くの参拝者をお迎えしております。